



技術講習会のご案内

締切間近！

(一社)地盤品質判定士会 関西支部主催

「小規模建築物基礎設計指針を読み解くセミナー」～地盤品質判定士の視点から～

2025 年 12 月に日本建築学会から 17 年ぶりに「小規模建築物基礎設計指針」の改訂版が刊行されました。今回の改訂では一般建築物用の「建築基礎構造設計指針」との整合性を取りながら、定義・用語を見直し、根拠を整理して実務で定着している最新技術を反映しています。特に沈下リスクと液状化リスクに対して新たにリスクコミュニケーションの考え方が導入されました。

しかし、日本建築学会で総論的にまとめられたものであり、日々地盤問題と格闘する地盤品質判定士が実践に使うにはもう一段深く読み解く必要があります。具体的には地盤調査方法はコスト重視の記述、沈下の推定方法、液状化判定方法は定性的な記述に抑えられており、基礎設計、地盤改良、擁壁などの構造物、沈下障害・修復の内容についても実務で使うには具体性をやや欠いているように思えます。

そこで、関西支部の地盤品質判定士の視点から小規模指針の内容を読み解くセミナーを企画しました。地盤品質判定士はもとより一般の技術者にも非常に参考になる内容となっています。(会告より抜粋)

開催日：10 月 26 日(月) 13:00 ～ 17:00

開催方法：Zoom ミーティングによるオンライン講習会

詳細は(一社)地盤品質判定士会 HP 講習会情報 (<https://shop.hanteishi.org/workshop/>) でご確認下さい。

(一社)地盤品質判定士会 主催 宅地地盤の評価に関する最近の知見講習会

『宅地地盤・盛土・擁壁等の被害と対策及び防災普及活動等に関する知見』(外部講習会)

令和 8 年熊本地震や令和 6 年能登半島地震をはじめ、大地震及び大雨の影響等により、宅地盛土・擁壁及び崖面崩壊防止施設(補強土等)の崩壊、宅地地盤の液状化及びそれに伴う建築基礎の変状など、民間・公共施設等において、数多くの被害が発生しています。令和 5 年 5 月に施行された盛土規制法では、主に地震や降雨による盛土等の表層崩壊、大規模崩壊、盛土等の崩落により流出した土砂が土石流化する現象などの災害を想定し、新設・既存盛土等に対して安定化策が進められています。また、地域住民による自主防災の必要性も高まっており、この取り組みを推進するための防災普及活動も重要になっています。

宅地地盤・擁壁の安定性等について、限られた情報の中での的確に把握・評価するためには、携わる技術者が地盤工学に関する高度な専門知識と技術者倫理を有するだけでなく、最新の宅地・建築基礎の被害・対策等に関する情報、宅地防災の普及活動への取り組みなど、新しい知見を常に得る必要があります。

そこで、地盤品質判定士会では地盤工学会と連携して、本講習会を企画いたしました。2016 年熊本地震による被災宅地の復旧対策効果の確認、補強土(崖面崩壊防止施設)による盛土安定強化策、盛土造成地・宅地擁壁の被害等に関わる知見、擁壁の設計・施工時の考え方、宅地防災の普及活動等より得られた知見についての話題を提供します。皆さま、奮ってご参加ください。(会告より抜粋)

開催日：11 月 11 日(水) 9:30 ～ 16:50

開催方法：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

詳細は(一社)地盤品質判定士会 HP 講習会情報 (<https://shop.hanteishi.org/workshop/>) でご確認下さい。